

POWER!



2023年
10月
vol. **87**

令和5年(2023年)
10月20日発行

発行所 ● 日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200

発行月 ● 5月、7月、10月、1月

<http://www.yakuren.jp>

令和5年度臨時評議員会及び本田あきこ中央後援会令和5年度役員会が開催される

令和5年9月13日(水)午後1時より、都内貸会議室にて「令和5年度臨時評議員会」が開催された。

司会の馬場常任総務より開会が宣言され、続いて山本会長にご挨拶をいただき、予定であったが、公務のため遅れて参加され、到着後に挨拶された。

山本会長は挨拶の冒頭で、厚生省で開催されたマイナ保険証利用促進のための意見交換会に出席していたため遅参したことについてのお詫びと本田議員が同会合に厚労大臣代理として出席されていたと報告され、本臨時評議員会においては、これまでの活動を振り返って協議をしていただき、来年3月に新執行部となっても変わらず本田議員を支援する体制を構築していただきたいこと、その活動が実を結び、目標20万票を達成できるように願っていること、そして組織代表議員二人体制を維持することの重要性について改めて強調された。

薬剤師国会議員挨拶として神谷政幸参議院議員より挨拶があった。公務のため欠席となった逢坂誠二衆議院議員は秘書



より挨拶があり、本田あきこ参議院議員は前述の通り山本会長とともに公務のため遅れて参加され、到着後に挨拶いただいた。

次に、明石議長及び畑澤副議長が登場し、会議の成立が宣言され、続いて議事録署名人として斉藤晃雄評議員、河上英治評議員が指名された。

まず重要事項の経過報告として最近の政治課題について、川田幹事長、石井副会長から説明がなされた。

そして報告並びに議案説明では、報告

第1号令和4年度会務並びに事業報告を石井副会長より、議案第1号令和4年度収入支出決算報告の件を萩野副会長より説明の後、高祖監事より会計監査報告がなされた。質疑応答では特に意見はなく採決となり、賛成多数で原案通り可決承認された。

その後、協議に移り、責任負担金について浜田副会長より説明がされ、質問はできなかったが、後日でも質問を受け付けることが伝えられ、原口副会長の閉会挨拶で散会となった。

臨時評議員会終了後は、本田あきこ中央後援会主催の「本田あきこ中央後援会令和5年度役員会」が同会場で開催され、山本会長の挨拶の後、本田あきこ参議院議員より次期に向けての決意の言葉が述べられた。続いて、武田日本病院薬剤師連盟会長、近藤日本女性薬剤師連盟会長よりそれぞれ激励の言葉をいただいた。

会議では、各種活動報告がなされ、最後に橋本常任幹事の音頭でコールが行われ、盛会裏に終了となった。



藤井基之先生、旭日重光章受賞祝賀会開催される!

2023年6月23日(金)、藤井基之先生旭日重光章受賞祝賀会が東京會館にて開催された。日本薬剤師会、日本薬剤師連盟の役員が発起人となり、岸田文雄自由民主党総裁、根本匠元厚生労働大臣や本田顕子参議院議員、神谷政幸参議院議員、松本純前衆議院議員、とかしきなおみ前衆議院議員をはじめ、ともに活動してきた日本薬剤師会・薬剤師連盟、全国の薬剤師会・薬剤師連盟の新旧役員、薬業界の方々、同級生や省庁時代の友人など多くの方々が集まり、藤井基之先生のお人柄が伝わる祝賀会となった。沖縄の追悼式からお帰り直後に駆けつけていただいた岸田首相のご挨拶では、政策通としての知識や経験の深さによる功績もご紹介いただき、出席者からは改めて多くの賞賛が寄せられていた。

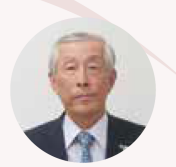


藤井基之先生は、東京大学薬学部を卒業後、厚生省に入省され長年にわたり行政官として国民の健康な生活の確保のためにご活躍された。平成9年の厚生省退官後は、日本薬剤師連盟副会長、日本薬剤師会常務理事、そして平成13年には日本薬剤師連盟の組織候補として参議院議員選挙において初当選された。先生の豊富なお見識と行動力をもって薬学教育6年制の実現、医薬分業の推進をはじめ薬事衛生の向上に尽力された。

その後、3期18年の長年に渡り薬剤師議員として我々薬剤師、そして薬業・薬学の代表としてご活躍され、昨年の7月に神谷政幸参議院議員にバトンを渡された。長年にわたる活動への感謝とともに、これからも先生の知識と経験に基づきご指導を引き続き賜りたいと思った素晴らしい会となった。



風力計



日本薬剤師連盟 副会長 石井 甲一

異常気象と地球温暖化

7月以降、真夏日、猛暑日が連続しており、熱中症対策の重要性が毎日のように報道されていた。また各地で線状降水帯が発生し、豪雨や雷雨による大規模な水害のニュースが流されていた。海外に目を向けると、各国で山火事が発生しており、8月に発生したハワイ・マウイ島の山火事では古きハワイの面影を残すラハイナという町が壊滅的な状況になったとのことである。地球温暖化については長年にわたって国際的問題として対策の必要性が議論されている。地球規模で災害級の猛暑が続いていることから、7月には国連の事務総長が「地球温暖化から沸騰化だ」と発言する事態となっている。

本田参議院議員は本連盟副会長時代のパンフレットに政治信条を記載しており、その一つが「災害に強く、美しい自然に満ちた国土づくりの推進」であった。議員になってからの国会質問でも、自然災害時での対応として、災害対策本部への災害事業コーディネーターの配置の必要性やDMATへの薬剤師参加の重要性などを訴えてきている。また、故石井道子先生も環境庁長官時代に、地球温暖化防止京都会議を開催され、温室効果ガスの排出削減目標を設定することを決めた、いわゆる京都議定書を締結したことを記憶している。

自然災害などの環境問題は、薬剤師として関心を持つべき分野であり、国政の場で薬剤師の国会議員が自然災害時における対策や地球温暖化防止のための対策に貢献されることを期待している。

第56回

日本薬剤師会学術大会 日本薬剤師連盟ブースにて

令和5年9月17日(日)・18日(月・祝)、第56回日本薬剤師会学術大会が、和歌山県和歌山市にて開催された。日本薬剤師連盟は和歌山城ホール3階多目的スペースにブースを出展し、チラシやパンフレットの配布、本田あきこ物語の紹介、YouTube薬連タイムズの上映などを行った。2日間にわたり本田顕子参議院議員、神谷政幸参議院議員がそれぞれブースに立ち、参加者と交流をかわした。



薬連 Times

Yakuren Times
薬連タイムズ
薬剤師・薬局・業業のための
情報発信チャンネル

YouTube
薬連タイムズ

QRコードをスキャンして
チャンネル登録をお願いします

Instagram @薬連タイムズ

X (旧Twitter) @薬連タイムズ

Facebook @薬連タイムズ

本田あきこ議員の政治活動報告



薬局訪問(青森)

薬局訪問(岡山)

四国3県国会見学

コロナ禍にあっても、日本薬剤師連盟及び都道府県薬剤師連盟の皆様を支えられ、感染防止対策に努めながら多くの学びと励ましの機会をいただけてまいりましたが、ここに至って皆様との交流の機会が増えてきました。

今回は各連盟からお声がけをいただいた交流の機会等の一部をご紹介します。

今後も薬剤師を取り巻く課題解決や職能拡大・地位向上につながるご指導を仰ぐため、これまで以上に皆様にお目にかかる機会をいただきたいと思います。

1. 連盟主催のフォーラム・意見交換会

各地の地域医療を支えておられる皆様の生の声を伺うことも貴重な機会です。対話やグループ討議から得られる成果は薬剤師の明日の歩みにつながります。講演の時間をいただいた際は、政治が果たす役割や国民の負託を受けた資格者に求められているものは何か等を伝えさせていただいております。

次世代を担う若手薬剤師の皆様が参加する若手フォーラムは、組織の更なる強化につながりますし、日頃抱えている課題の指摘やSNS利活用等の提案のほか、思わぬ気づきをいただくことがあります。

連盟ごとに趣向を凝らしておられ、年に複数回開催のほか、自民党県連や県議・市議の先生方を交えたケースもありました。

また、ブロック単位での開催はとても効果的と感じています。今年度後半も多くのご案内をいただいておりますので、とても楽しみです。

2. 薬局・病院等への訪問

連盟主催の会議や研修会等への出席にあわせて薬局等の施設を訪問する機会はとてありがたいです。国会開会中はまとまった時間の確保が難しい場合がありますが、例えば、今年度は閉会後の7月に青森の薬局、9月には岡山の薬局・病院・卸事業所を訪問しました。静岡の薬局で台風の影響を伺う機会もありました。

訪問の際はいつも連盟の皆様にご同行いただいております。本当にありがとうございます。

3. 国会見学

今年に入り、国会議事堂をご案内する機会も増えてきました。4月と8月に東京都薬剤師連盟なでこの会、6月には香川、愛媛及び高知の四国3県の連盟の皆様にお越しいただき

ました。また、1月には母校星薬科大学の同窓会の先生方に訪問いただきました。

見学を通じて、できるだけ政治を身近に感じてもらえればと思っております。

4. 薬学生・大学等での講義・講演

候補者の頃を含め、これまで薬学生や大学関係の方に講義・講演する機会をいただいております。

昨年11月に富山大学で「医療の担い手『薬剤師』～薬剤師に求められること～」と題して講演を行い、5、6年生及び教員の先生方と意見交換することができました。薬学で培う専門性が幅広い分野で生かせることや薬剤師の地域での貢献の仕方などをお伝えする中で、学生・教員それぞれの視点での率直なご意見にとて刺激を受けました。11月には石川県の連盟のご配慮により北陸大学で講義を行う予定です。

また、本年4月と7月に愛知県薬剤師会主催で薬学生を対象にした研修会が行われ、災害時における薬剤師と薬剤師会組織の関わりについて伝えさせていただく等、薬学生や大学関係者との「触れあい」の中でとても有意義なときを過ごさせていただいております。



オレンジ日記

参議院議員・薬剤師 本田顕子



大臣政務官400日を振り返って

9月13日に内閣改造が行われ、第2次岸田第2次改造内閣が発足しました。その翌々日の15日付けで私は大臣政務官の任を終え、厚生労働大臣政務官の任務を塩崎彰久衆議院議員に引き継ぎました。

昨年8月12日に大臣政務官を拝命してから400日間は、永田町と霞ヶ関を分刻みで「行き交う」毎日でした。厚生労働行政は本当に幅広く、すべてが国民生活に直結する課題ばかりで、それらの課題に取り組む厚生労働省という組織の重要性と責任・期待の大きさを改めて感じました。今回、行政機関内での制度設計や意思決定プロセスを知り、厚労省職員との関係構築ができたことは今後の財産と思っております。



大臣政務官在任中、新型コロナへの対応は、特例的な措置・対応中心の仕組みから徐々にコロナ前の日常に移行していくこととなりましたが、9月から「令和5年秋開始接種」が始まり、インフルエンザも今冬での流行が懸念される中、今後も感染予防への高い意識を持ち続ける必要があると思います。

他方、品質問題に端を発した医薬品の供給不足に関しては、特に解熱鎮痛薬や鎮咳去痰薬などが深刻な状況のため、厚生労働省の相談窓口では、解熱鎮痛薬のほか鎮咳薬や去痰薬などを対象に、個々の薬局に加えて地域の薬剤師会単位でも相談を受け付けることになりました。

9月29日付けで参議院自民党国会対策副委員長を拝命しました。国会対策委員会は「国対」と称され、本会議をはじめ重要法案を抱える常任委員会等の運営に関する事前協議と野党間で行うところ。国民からみた薬剤師の姿や評価を政府側の立場から見てきた経験も生かして、自民党議員として国会運営に関わり「薬剤師から政策提言！」をモットーに頑張っております。

● 広報委員

- 原口 亨、石井 甲一
- 浜田 嘉則、橋本 昌子
- 和泉啓司郎、小屋敷淳子
- 堀越 博一、渡邊美知子

(渡邊みち草)



政幸だより

参議院議員・薬剤師 神谷政幸



電子処方箋モデル事業－広島県安佐地域を訪問

令和5年8月29日、電子処方箋のモデル事業を実施されている広島県安佐地域を訪問しました。本事業は安佐地域の他、山形県酒田地域、福島県須賀川地域、千葉県旭地域で実施されており、事業実施期間は令和4年10月末から1年間です。重複投薬等のチェックをはじめとした電子処方箋の運用面での検証を行うとともに、電子処方箋を活用した先進的な取組や課題、優良事例を収集することにより、電子処方箋の更なる活用方策についてとりまとめる予定です。

広島県薬剤師会の豊見雅文会長にご同行いただき、まず初めに広島市立北部医療センター安佐市民病院を訪問しました。薬剤部長のご案内で、実際に運用されている各部門の状況を視察させていただきました。その後、医療法人長久堂野村病院となかしま薬局を訪問し、現状を視察させていただきました。

安佐地域のモデル事業の第一の特徴は、参加する医療機関と薬局の数が多いことにあります。また、電子処方箋発行までの流れにも特徴がありました。患者さんに対して、まず保険薬局から電子処方箋に関する説明を行い、同意された場合は「電子処方箋申込書」に患者さんが署名等を記載します。これを患者さんが医療機関に持参し、電子処方箋を発行することで、電子処方箋に対応できない薬局に患者さんが処方箋を持って行くことを避けることが出来ます。



広島市立北部医療センター安佐市民病院にて

今回、電子処方箋の運用プロセスや課題等について現状を伺い、様々な問題点を確認することが出来ました。調剤記録や重複投薬等チェック機能はもちろん、医療機関と薬局の情報交換がスムーズになることで、医療安全と薬物療法の質向上に繋がることが実感しました。今回の視察にご尽力いただきました関係者の皆様へ御礼を申し上げます。

編集後記

出会いと別れ

子育てのプランクの後、現在の地に移ってから漢方薬販売、薬局製剤OTC販売と調剤を行う薬局に勤務した。その時はまだ薬剤師会の存在を知らなかった。毎月届く県報雑誌に時々目を通したことはあったが遠い存在だった。そこで10年間の経験を基に、48歳の時、大学を卒業して、すでに大手企業に勤務していた息子に声をかけ無謀にも一緒に薬局を起業した。勤務していた薬局のオーナーからいろいろ教えていただく中で、開業するには地域薬剤師会に入会が必要と言われ、M会長を紹介された。地域薬剤師会に入会後、県薬剤師会に推薦され同時に日本薬剤師会に入会となった。地区の三師会の親睦会にも入会した。

M会長との出会いから怒涛の薬剤師会の関わりとなっていった。新設小学校の学校薬剤師への推薦、研修会へのお誘い、様々な行事の手伝い等、薬剤師会の仕事が多々回ってきた。素直に受けていたうちに開局2年目にして地域薬剤師会の理事へ推薦された。夜の会議に初めて参加した時は、右も左もわからず、固まっていたように思う。薬剤師会の全体像が見えてくるまで全ての活動に参加していた。そして薬剤師連盟の存在を知ることとなった。薬剤師の職能を守り、自分たちの声を届ける場所として連盟活動をM会長から学んだ。7年前会長を辞められ、痛めた腰をかばいながら調剤室にすわっておられた。星薬科大学同窓生の奥様のことが大好きで、星の観察が好きで、猫と雀が好きで、私を三師会の俳句の会に誘ってくれたM先生が7月29日肺炎で亡くなった。体調はあまりよくはなかったけど、6月の総会には杖をついてきてくださったのに。寂しい。大好きなビール飲んでください。M先生のおかげで今の私が連盟にいるのだと思う。ご冥福をお祈り申し上げます。